

## 5) 教育評価の指標

本取組の教育活動の特色は、学生の参画を通して実践が行なわれる点にある。そして、本取組の体系的な教育実践は、下北地域をフィールドとする1年次、4年次の3学科合同の演習・実習、ならびに3年次の専門的な演習・実習科目を含むもので、主体的学習によって行われてきた。これは、従来の学科の枠組みを越えた総合的な実践教育であると位置付けることができる。臨床あるいは実務、ケアの実際の場に学生は身を置き、現実の問題について、知識、技術、情報、資源等を活用してどのように解決するのかを主体的に学ぶものである。これらの学習を通じて、青森県下北という過疎地域の保健医療福祉の諸問題を解決するために必要な専門的実践能力、連携力、主体力、創造力を育成する。学生は、「包括ケアシステム」の中で実践場面に参画することにより、「利用者本位」「他職種連携」「包括ケア」といった保健医療福祉の重要な概念を学んでいる。そして、過疎地における「システムを変化させるプロセス」を体験することができていると評価することができる。

従来、組織的な教育活動の実践は、plan-do-seeの循環過程を経て、総括的あるいは詳細の観点から、適正かつ客観的評価や改善がなされることが求められている。本取組の推進にあたり、実施主体である本大学の中に、現代GPコア会議及び同拡大会議の、専門的下部組織として、主に学部学生の参画型教育、大学院生の研究支援を遂行する目的で、教育部会が設置された。

教育部会の実施業務の一環として、17年度中に、前述の教育活動の特色を踏まえた教育評価のための諸指標を立案・協議し、同拡大会議の中で報告を行なった。その一覧を下表に示す。

教育評価は、主に、学習者の学習の到達度を測定するための成績認定に関わる一連の評価過程と、教育プログラムそのものの有効性や課題点を明らかにするための評価、とに分けて考えることができる。同部会では言わば後者に属する諸指標を主に検討してきた。本取組をさらに継続する中で、これらの指標を効果的に活用するとともに、よりよい教育評価指標の在り方を今後も検討していきたいと考える。また、本取組全体の目的に基づいて、①情報の共有、②専門職間の相互理解・連携の必要性、③利用者の生活や意見の尊重、④利用者主体の援助行動、⑤地域社会における資源の役割、⑥主体的貢献のあり方等の観点について、学生の理解度や意識変容、態度等の側面を、自由回答式あるいは評定方式のアンケート等の方法により明らかにしていくことが求められる。

表1 教育部会で継続検討中の教育指標

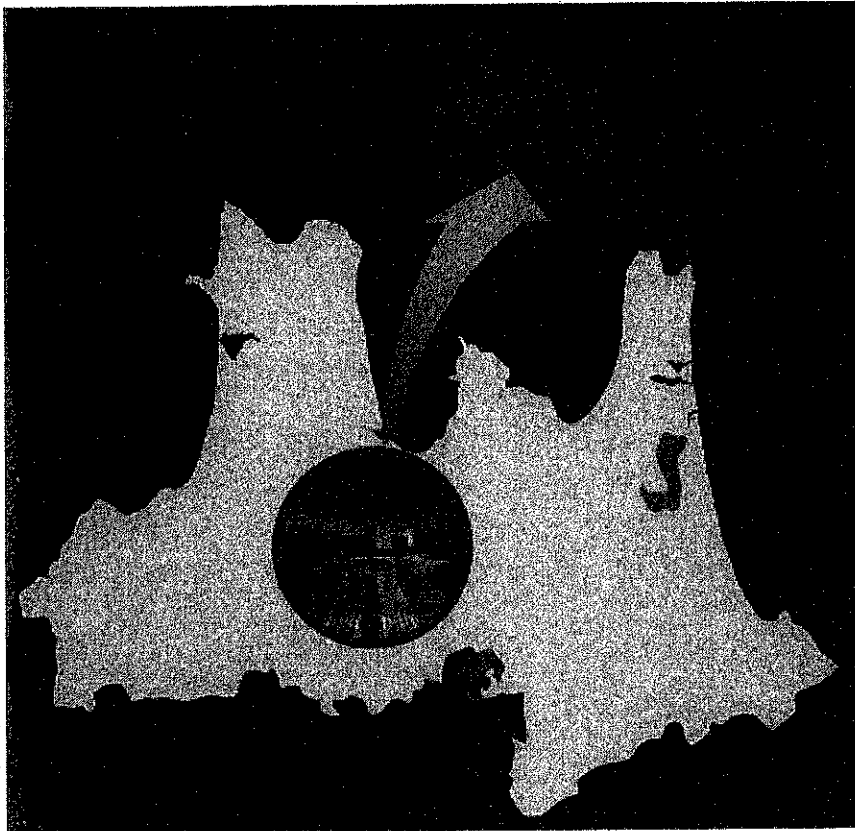
評価の主体と視点	評価指標
①学習者の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業評価</li> <li>・ 学生の満足度評価</li> <li>・ 授業前後比較による、事業内主要項目アンケート調査</li> </ul>
②教育担当者の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の参加・出席状況</li> <li>・ 教員間ピア評価</li> <li>・ 成績評価のエビデンスとしてのテスト、レポート、グループワーク状況、フィールドワーク状況、プレゼンテーションレジュメ、ケアプラン等の成果物</li> </ul>
③教育協力者(地域の関係者)の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の関係機関職員、実習協力者、利用者及び家族からの聞き取り調査による評価</li> </ul>

## 目 次

はじめに	新道幸恵・中村恵子	1
I 採択の経緯	上泉和子	2
II 本学における GP の位置づけ		
1. 組織運営とその活動	上泉和子	3
2. 地域の概況	上泉和子	4
III 平成 17 年度実施状況 (一覧表)	深掘 満	6
IV 下北地域を元気にする学生参画型教育の 4 本柱	川口 徹	7
V 事業の概要		
1. 学生参画型教育の実施	佐藤秀紀	9
1) ケアマネジメント論演習	桜木康広	10
2) 初期総合臨床実習	勘林秀行	15
3) リハビリテーションケア	石鍋圭子	16
4) 保健福祉概論シミュレーション	山本春江	18
5) 教育評価の指標	浅田 豊	21
2. サテライト拠点 (下北地域センターの運営)	川口 徹	22
3. テレビ会議システムを活用した遠隔地支援	川口 徹	23
4. 現代 GP の取組にリンクした教員による教育研究活動	石鍋圭子	24
5. 研修会等の実施		
1) 小児のヘルスケアアセスメント	中村由美子	26
2) 地域包括ケアのシステムを考える～コミュニティソーシャルワークの展望～	渡邊洋一	27
3) 介護保険事業の改革と心の健康 in 現代 GP	渡邊洋一	28
6. その他		
1) 広報、文部科学省 GP フォーラム等への参加	川口 徹	30
2) 推進会議・地域との連携	上泉和子	30

平成17年度

現代GPI「下北地域を元気にする学生参画型教育」報告書



青森県立保健大学

「人間総合科学」という学際的リベラルアーツの中で探究したいこと、教授したいこと、支援したいこと  
浅田 豊

本学の教育理念の支柱でありますヒューマンケアの提供できる人材育成、つまり①知識・技術・態度の側面での高度な専門性、②相手を尊重し、思いやりの心を持ち、あたたかい人間関係づくりができる豊かな人間性、③地域の特性やニーズを的確に把握し地域社会へ貢献できる資質、を兼ね備えた人材の育成の基礎・基盤となるのが人間総合科学科目であります。

人間総合科学科目はその名が示すように、①多大な蓄積を持つ人文・社会・自然科学という諸科学の枠を超えて総合的観点から人間を理解するという視点、②自ら考え判断することを通して、主体的に学習を展開するという視点、③論理的思考を展開し、科学的かつ客観的に問題を解決するという視点、を概念的基軸とします。そしてこのような概念を具現化させたものが、実践参加型の英語授業やコンピュータを利用した情報処理能力の修得、自己学習能力を育成する基礎演習などを内包する33の科目群になります。

そういった科目群の中で、わたくしはゼミナールとして「人間総合科学演習」を、講義として「グローバル社会と文化」「調査と科学的方法」という科目を受け持っています。ゼミでは、「感性を育む教育について考える」というテーマのもとで、①多様な自然体験・生活体験を伴った子どもの感性の教育のあり方について、具体的諸例を通じて考察すること、②将来保健医療・福祉サービスに従事する学習者（ゼミ参加者）自身の問題として、「感性をはぐくむこと」を考察すること、に主眼を置いた授業展開をしています。

また、2つの講義科目はオムニバスで運営していますが、わたくしの果たす役割は、教育社会学・教育人類学の領域と、質的・記述的調査研究方法論の領域からの授業内容の提供となります。「グローバル社会と文化」では、諸外国の教育問題やグローバル時代の国際感覚に関して理論と実証の両面から講じるとともに、授業ごとにディスカッションのテーマを与えて、学生参加のグループワークを取り入れてきました。「調査と科学的方法」では、社会科学の方法に基づく研究論文・調査報告の作成方法の基礎を講じるとともに、論理的思考と自己表現力を向上させることを目的としたエクササイズを取り入れ、学

習の中でオリジナルの副教材を用いています。

現在担当しているこれらの教育内容は、わたくしの研究の道程を背景とするものです。これまで取り組んでまいりましたのは、①今日の教育改革と新しい学力観、②家庭・学校



・地域コミュニティの連携のあり方、③幼児教育の理論と実践、④教育方法と評価、⑤開発途上国における教育開発の課題、というようなテーマに沿った考察です。そして本学に着任以降は、前述の研究の応用分野として、看護・理学療法・社会福祉の学科の先生方にご指導を頂きながら、共同研究の形でいくつかの研究課題にチャレンジをしています。

人間総合科学科目は現在、完成年度以降を見据え、社会的ニーズや学部の教育目標などの観点から、カリキュラムの全体的な改訂の段階に入っています。必修・選択科目の学年配置や精選、拡充発展、さらなる体系化等の課題が主要な焦点になっております。こういった課題を達成した上で、成績評価方法の工夫や、学生による授業評価の効果的な実施、メディア・IT環境の整備と充実、単位互換制度に関する工夫等の教育方法面での課題もまた、将来の人間総合科学科目における検討課題になりうるのではないかと考えています。

わたくしはこれからも、「人間総合科学」という可能性に満ちた小宇宙の中で、教育・研究の両面において、学問的模索を続けていきたいと思っております。